

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

33

1 施策の概要

1-1 施策の名称	観光（豊明まつり）			基本施策コード	3-3-4
1-2 担当	部	市民生活部	課 又は施設	市民協働課	評価票作成者 市民協働課長 藤井和久
1-3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			
	②項	産業振興			
1-4 施策の目的	市民が集い楽しむ場として、春・夏・秋に行われる豊明まつりの充実を図る。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	
総合評価	A	

● 施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期（平成18年度～平成22年度）			全期間（平成23年度～平成27年度）			指標の定義
		目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	
①	豊明秋まつり来場者数	120,000(人) 平成20年度6万変更	84,300(人)	140.5	120,000(人)			豊明まつりの実施状況を表す指標
②	豊明夏まつり来場者数	45,000(人)	44,000(人)	97.8	50,000(人)			豊明まつりの実施状況を表す指標
③								

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	地域社会における連帯感が薄れている中、市民の交流・活動の場として市民まつりの果たす役割は大きい。	豊明まつりのあり方を含め、抜本的な見直しが必要であり検討委員会により検討していく。	年々イベントとしての内容も充実し、多数の市民が参加した。
平成19年度	〃	「豊明まつり検討委員会」にて、今後のまつりのあり方を「市民参加型、市民主体型」とし、転換を図ることを決定。	年々イベントとしての内容も充実し、多数の市民が参加した。平成20年度以降の「市民参加、市民主体型」のまつりの検討ができた。
平成20年度	〃	「市民参加型、市民主体」に転換を図った。市民による実行委員会を今後継続できるまつりとなるべく検討していく。	多くの市民の来場があり、最少の予算でまつりを盛り上げることができた。
平成21年度	〃	「市民参加型、市民主体」に転換を図って、2年目。今後継続できるまつりとするため、各会場の市民メンバーと包括的な実行委員会組織の設立を目指す。	転換を図って2年目、新たなイベント企画もでき、また雨対策を図ることで多くの来場者があった。
平成22年度	地域社会における連帯感が薄れている中、市民の交流・活動の場として、市民まつりの果たす役割は大きい。「市民参加型、市民主体」に転換して3年目、各会場の市民メンバーと包括的な実行委員会を組織し、今回初めて各会場を連携する行事を実施。昨年以上の来場者があった。		
平成23年度	地域社会における連帯感が薄れている中、市民の交流・活動の場として、市民まつりの果たす役割は大きい。前年度は、秋まつりにおいて実行委員の位置づけがあいまいな面があったが、各市民団体からの代表者としての参加が明確になりつつあり、市民主体の実行委員会組織の安定化が進展した。		
平成24年度	40周年記念事業として2日間開催し、パレードの復活など多数の市民が訪れた。市民主体のまつりとしては定着しているが、新しい実行委員会メンバーの参加など、課題点も多い。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

